

令和 9 年版
視能訓練士国家試験
出題基準

厚生労働省医政局医事課

視能訓練士国家試験の出題基準見直し等について

1. 基本的な考え方

- (1) 視能訓練士国家試験は、視能訓練士法に基づき「視能訓練士として必要な知識及び技能について」行われる。ここでの「必要な知識及び技能」とは、医師の指示の下で患者に対して両眼視機能の回復のための矯正訓練及びこれに必要な検査並びに眼科検査を行うのに必要な基本的事項である。
- (2) 近年、視能訓練士を取り巻く環境の変化や医療の進歩に伴い、視能訓練士に必要とされる事項が増加・高度化している。このような状況の下で、国民の健康及び安全に直結した業務を行う医療関係職種としての資質の維持・向上を図るためには、視能訓練士として特に必要不可欠な基本的事項を領域毎に明確化した上で、国家試験としてこうした基本的事項の修得状況を確認する必要があると考えられる。

2. 改定内容

- (1) 出題基準の見直し
教育の現況や医療の進歩に合わせ、視能訓練士国家試験出題基準における項目の追加・削除を行う。
- (2) 「必修問題（仮称）」の導入見送り
視能訓練士国家試験においては、医療の一翼を担う視能訓練士にふさわしい最低限度の知識及び臨床能力を有しているかを判断した上で可否を判定すべきであるという観点から、「必修問題（仮称）」の導入を検討してきた。しかしながら、「必修問題（仮称）」を導入した場合、毎年一定の難易度を確保するための作問が困難であるなどの公平性の観点で懸念があり、当面の間、「必修問題（仮称）」の導入は見送る必要があるという結論にいたった。

3. 今後の取扱い

新しい出題基準については、令和9年(第57回)の視能訓練士国家試験から適用する。

視能訓練士国家試験出題基準の作成について

1. 経緯

現行の平成31年版出題基準は平成28年10月より検討を行いとりまとめられたものである。

前回の出題基準作成から8年以上が経過し、現行の教育及び医療水準を踏まえた改定を行うため、令和6年11月、視能訓練士国家試験出題基準改定検討会を設置し、今般、改善に関する基本的な方向性についてとりまとめた。

なお、「必修問題（仮称）」の導入については、一定の合格率を確保するための作問が困難であるなどの懸念があるため、当面の間は、導入を見送る必要があるという結論にいたった。

今般とりまとめた出題基準は、令和9年（第57回）の視能訓練士国家試験から適用する。

2. 委員

別 紙

3. 会議開催状況

第1回 令和6年11月29日(金)

第2回 令和7年 1月24日(金)

第3回 令和7年 3月 7日(金)

視能訓練士国家試験
出題基準改定検討会委員名簿(50音順)

○は座長

氏名

臼井 千恵 帝京大学

内川 義和 国際医療福祉大学

岡 真由美 川崎医療福祉大学

川守田 拓志 北里大学

南雲 幹 井上眼科病院

○ 新井田 孝裕 国際医療福祉大学

根岸 貴志 順天堂大学

橋本 勇希 福岡国際医療福祉大学

林 孝雄 帝京大学

丸林 彩子 埼玉医科大学総合医療センター

横山 利幸 順天堂大学医学部附属練馬病院

視能訓練士国家試験出題基準の利用法

視能訓練士国家試験は、視能訓練士法に基づき「視能訓練士として必要な知識及び技能について」行われる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、視能訓練士国家試験出題基準である。視能訓練士国家試験の妥当な範囲と適切なレベルを確保するため、視能訓練士試験委員はこの基準に拠って出題する。

なお、当該出題基準は学校養成所の卒業前の教育で扱われる内容の全てを網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

1. 見出し〈章〉、大・中・小項目に分類する。

- (1) 見出し〈章〉は視能訓練士学校養成所指定規則に定める教育内容とする。
- (2) 大項目は中項目を束ねる見出しとする。
- (3) 中項目は、視能訓練士国家試験の出題範囲とする。
- (4) 小項目は、キーワードとして、中項目に関する内容を分かりやすくするための事項とする。これは、大・中項目に関連して出題されるものとする。また、出題範囲は記載された事項に限定されず、標準的な学生用参考書に記載されている程度の内容を含む。

2. 専門領域等により同一事象に対し異なる表現がある場合には、括弧書き等によりどちらも使用可能とした。

また、括弧は以下のルールにより使用した。試験委員会の判断により、括弧内、外の語を適宜使用できる。

() : 直前の語の説明又は限定

【例】外耳(耳介、外耳道、鼓膜)

< > : 直前の語と同義

【例】世界保健機関<WHO>

[] : ()や< >の中に()や< >がある場合の大きな括り

【例】薬剤耐性[antimicrobial resistance<AMR>]

{ } : 省略しても意味または分類の変わらない語

【例】蛋白{質}

視能訓練士国家試験出題基準と試験科目との対応表

出題基準(章)	試験科目
○人体の構造と機能及び心身の発達 ○疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 ○視覚機能の基礎と検査機器 ○保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	基礎医学大要
○基礎視能矯正学	基礎視能矯正学
○視能検査学	視能検査学
○視能障害学	視能障害学
○視能訓練学	視能訓練学

專 門 基 礎 分 野

I. 人体の構造と機能及び心身の発達 [専門基礎分野 (基礎医学大要)]

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 生殖、発生の概要	A. 受精から個体発生	a. 眼の発生
		b. 発生に関するその他の重要な事項
2. 個体の構造	A. 細胞の構造と機能	a. 細胞膜、核、ミトコンドリア
	B. 組織の構造と機能	a. 上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織
3. 遺伝	A. 遺伝子	a. 基本構造と機能
		b. 染色体
		c. 核遺伝子
		d. ミトコンドリア遺伝子
4. 血液、造血器	A. 血液、造血器の構造と機能	
5. 免疫機構	A. 免疫系の構成・機能	
6. 運動器	A. 骨、関節の構造と機能	
	B. 筋の構造と機能	a. 骨格筋、平滑筋
7. 心臓、血管	A. 心臓、血管の構造と機能	
8. 内分泌	A. 内分泌器官の構造と機能	a. 視床下部、下垂体、甲状腺、副腎皮質、膵島、松果体
		b. ホルモンの種類と作用機序
9. 脳・神経	A. 神経の構造と機能	a. 神経生理学
		b. 神経細胞、神経線維、軸索、髄鞘、神経膠細胞
		c. シナプス、神経伝達物質
	B. 中枢神経の構造と機能	a. 脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳)
		b. 脊髄
	C. 末梢神経の構造と機能	a. 脳神経(第Ⅰ～Ⅻ脳神経)
		b. 脊髄神経
	D. 自律神経	a. 交感神経
		b. 副交感神経
10. 感覚器	A. 視覚系の構造と機能	a. 眼球と眼付属器
		b. 視神経、視交叉、視索、外側膝状体
		c. 視放線、後頭葉<視覚中枢>
		d. 視覚系の機能
	B. 聴覚系の構造と機能	
	C. 前庭平衡系の構造と機能	
	D. 嗅覚、味覚系の構造と機能	
	E. 体性感覚系の構造と機能	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
11. 心身の成長・発達、加齢	A. 胎児期	a. 胎児の発育
	B. 新生児期、乳児期	a. 新生児、乳児の生理
	C. 幼児期、学童期	a. 幼児期、学童期の成長と発達
	D. 思春期、青年期	a. 身体の成長と発達
		b. 精神発達
	E. 加齢、老化	a. 加齢による細胞と組織の変化
		b. 加齢による臓器と機能の変化

Ⅱ. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進〔専門基礎分野（基礎医学大要）〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 健康、疾病、障害の概念	A. 健康、疾病、障害の基本的知識	a. 定義
		b. 健康管理と増進
		c. 健康科学と栄養
		d. 国際疾病分類
		e. 社会環境の変化
2. 病態の基礎	A. 疾病の原因	a. 病因論
	B. 病因と疾病の種類	a. 退行性病変
		b. 進行性病変
		c. 代謝異常
		d. 循環障害
		e. 免疫異常
		f. 炎症、感染
		g. 腫瘍
		h. 外傷
		i. 先天異常
		j. 染色体、遺伝子異常
		k. 心身症、精神疾患
	C. 疾病の回復メカニズム	a. 細胞の再生
		b. 創傷の治癒
		c. 脳の可塑性
		d. 機能回復
	D. 病期	a. 急性期
		b. 回復期
		c. 増悪期
		d. 維持期
		e. 終末期
3. 疾患の診断と治療	A. 感覚器系疾患	a. 視能障害をきたす疾患
		b. その他の感覚障害をきたす疾患
	B. 脳、神経系疾患	a. 脳血管障害
		b. 脳腫瘍
		c. 脳外傷
		d. 脊髄、脊椎疾患
		e. 末梢神経疾患
		f. 神経変性疾患、脱髄疾患
		g. 高次脳機能障害

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	C. 内科系疾患	a. 循環器疾患
		b. 呼吸器疾患
		c. 代謝、内分泌疾患
		d. 腎、泌尿器、生殖器疾患
		e. アレルギー疾患、膠原病、自己免疫疾患
		f. 感染症
	D. 精神神経系疾患	a. 機能性<内因性>精神疾患
		b. 器質性精神疾患
		c. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体症状症<心因性視能障害>
		d. 人格障害
		e. 小児、青年、老年期の精神障害
		f. 神経発達症<発達障害>
		g. 心身医学的疾患
	E. 運動器系疾患	a. 骨、関節疾患
		b. 筋原性疾患
	F. 外科系疾患	a. 外傷
	G. 小児科系疾患	a. 脳神経系疾患
		b. 代謝疾患
		c. 呼吸器、循環器疾患
		d. 運動器疾患
		e. アレルギー疾患
	H. 老年期疾患	a. 加齢と老化、フレイル
		b. 老年期の身体および精神疾患の特徴と対策
	I. 再生医療	
4. 眼病理	A. 視器の病理	a. 眼球、眼付属器の病理
		b. 外眼筋
		c. 視神経
5. 免疫	A. 免疫と眼	a. 眼の免疫機構
		b. 眼疾患と免疫
		c. アレルギー反応
6. 遺伝	A. 遺伝子異常と眼	a. 遺伝子異常と主な眼疾患

Ⅲ. 視覚機能の基礎と検査機器 [専門基礎分野 (基礎医学大要)]

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 視覚情報処理過程の概要	A. 眼球の解剖学的、幾何学的計測値	a. 解剖学的計測値
		b. 光学的計測値
	B. 眼球	a. 角膜
		b. 強膜
		c. ぶどう膜(虹彩、毛様体、脈絡膜)
		d. 網膜
		e. 水晶体
		f. 硝子体
		g. 毛様体小帯<Zinn小帯>
		h. 隅角
	C. 眼付属器	a. 眼瞼
		b. 結膜
		c. 涙器(涙腺、導涙系)
	D. 視神経	
	E. 外眼筋	a. 内直筋
		b. 外直筋
		c. 上直筋
		d. 下直筋
		e. 上斜筋
		f. 下斜筋
	F. 眼球の血管系	a. 眼動脈
		b. 眼静脈
		c. 網膜中心動脈
		d. 網膜中心静脈
		e. 毛様体動脈
		f. 大虹彩動脈輪
		g. 渦静脈
		h. 上眼静脈、下眼静脈
		i. 海綿静脈洞
	G. 眼窩	a. 眼窩構成骨
		b. 視神経管
		c. 上眼窩裂
		d. 下眼窩裂

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	H. 大脳皮質と機能局在	a. 中枢処理機構
		b. 第一次感覚野
		c. 第一次運動野
		d. 高次感覚野
		e. 高次運動野
		f. 連合野
	I. 視覚伝導路	a. 網膜
		b. 視神経
		c. 視交叉
		d. 視索
		e. 外側膝状体
		f. 視放線
		g. 第一次視覚中枢
		h. 高次視覚中枢
	J. 眼の運動系	a. 種類と神経経路
		b. 核上性中枢
		c. 眼球運動神経核
		d. 動眼神経、滑車神経、外転神経
		e. 輻湊、開散
		f. 開瞼、閉瞼運動
	K. 眼の知覚系	a. 三叉神経
	L. 眼の自律神経系	a. 交感神経
		b. 副交感神経
		c. 調節
	M. 瞳孔反応	a. 対光反射
		b. 近見反応
	N. 眼圧、房水	a. 眼圧
		b. 房水
	O. 涙液	a. 涙液層
2. 生体と検査機器	A. 視能検査機器の基本的知識	a. 視覚情報の基本
		b. 検査機器の規格と構成
		c. 検査目的に応じた検査機器の選択
		d. 機器の安全管理

大項目	中項目	小項目
3. 視能検査法と検査機器の基礎	A. 視力検査	
	B. 屈折検査	
	C. 眼鏡、コンタクトレンズ検査	
	D. 固視検査	
	E. 調節検査(AC/A比を含む)	
	F. 視野検査	
	G. 色覚検査	
	H. 中心フリッカ検査	
	I. 両眼視機能検査(網膜対応検査を含む)	
	J. 眼位検査	
	K. 眼球運動検査	
	L. 輻湊検査	
	M. 外眼部検査	
	N. 前眼部、透光体検査	
	O. 角膜検査	
	P. 瞳孔検査	
	Q. 眼底検査	
	R. 眼圧検査	
	S. 隅角検査	
	T. 涙液検査	
	U. 画像検査	
	V. 電気生理検査	
4. 眼薬理学	A. 視能検査および視能矯正に用いる薬物の基本的知識	a. 交感神経薬
		b. 副交感神経薬
		c. 点眼薬
		d. 催眠薬
		e. 局所麻酔薬
		f. 骨格筋弛緩剤(ボツリヌス毒素を含む)
	B. 薬物の投与法	a. 局所投与
		b. 全身投与
		c. 薬物の眼内移行
	C. 薬物の副作用	a. 眼科で用いられる薬物の副作用
		b. 中毒、ショック
	D. 医薬品等による健康被害、院内感染	

IV. 保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念 [専門基礎分野 (基礎医学大要)]

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 保健、医療、福祉、介護の推進	A. 保健、医療、福祉、介護制度の特徴	a. 行政と制度
		a. 視能訓練士と医療経済
	B. 社会医療制度と医療経済	b. 医療保険制度
		a. 視能訓練士法
	C. 視能訓練士法と関係法規	b. 医療法
		c. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法>
		d. 介護保険法
		e. その他の関係法規
	D. 組織と連携	a. 国と公共団体
		b. 保健所、市町村保健センター
		c. 地域包括ケアシステム
		d. 特別支援教育と教育課程
		e. その他の視覚障害者関連団体・施設
2. 公衆衛生学	A. 公衆衛生総論	
	B. 疫学概論と疫学指標	a. 環境問題
		b. 人口統計
		c. 生命表(平均余命と平均寿命)
		d. 疫学的方法
		e. 健康診査
	C. 健康の指標	a. 人口問題
		b. 生命表(死因分類)
3. 視能障害のリハビリテーション	A. リハビリテーションの考え方	a. QOL<quality of life>
		b. ノーマライゼーション
		c. 国際生活機能分類<ICF>
		d. 適応
		e. リハビリテーションの進め方
		f. 関連職種との連携
	B. 視能障害のリハビリテーション	a. QOL<quality of life>とQOV<quality of vision>
		b. 視能訓練士の役割
		c. 対象疾患
		d. 障害論、障害受容
		e. 患者と家族の心理
		f. 日常生活の不自由度
		g. 日常生活動作の援助指導
		h. バリアフリー、ユニバーサルデザイン

大 項 目	中 項 目	小 項 目
4. 視能訓練士の役割と義務	C. ロービジョン	a. 定義
		b. 評価
	A. 視能訓練士の倫理	a. リスボン宣言
		b. 視能訓練士法と業務
		c. 職務倫理、基本的心構え
		d. インフォームドコンセント
		e. 接遇、マナー
		f. 対象者の人権と個人情報保護
		g. 患者、小児、高齢者、障害者の心理特性とケア
		h. 検査における責任
		i. 検査データの管理
		j. 記録と報告
		k. 守秘義務
	B. 医療の質と安全の確保	a. 患者の安全管理
		b. 医療システム管理
		c. 医療過誤と医療事故
		d. インシデント、アクシデントとレポート
		e. 院内感染対策
		f. 標準予防策
		g. 救急対応と処置
	C. チーム医療	a. 多職種連携
		b. 家族との連携
		c. 連絡体制管理
	D. 患者と視能訓練士の関係	a. 患者の意向の尊重(患者参加型医療)

專 門 分 野

V. 基礎視能矯正学（専門分野）

大項目	中項目	小項目
1. 視能矯正の枠組み	A. 視能矯正の理念	a. 理念と目的
		b. 視能障害の捉え方
		c. 保健医療福祉と視能矯正
	B. 視能矯正の歴史	
	C. 視能矯正の展開	a. 視能訓練士の業務と管理、運営
		b. 視能訓練士の職業倫理
		c. 科学的研究の意義と方法
		d. 研究倫理
		e. 医療統計の基礎
		f. 根拠に基づいた医療<EBM>としての視能矯正
	D. 視能訓練士の教育、資質と適性	
2. 両眼視機能と眼球運動	A. 外眼筋の作用と眼球運動	a. 外眼筋の単独作用
		b. 単眼運動とその法則
		c. 両眼共同運動、両眼離反運動
		d. 共同筋と拮抗筋
		e. 外眼筋の神経支配
	B. 輻湊、開散と屈折、調節、AC/A比	a. 定義
		b. 発達
		c. 神経支配と中枢
		d. 種類
		e. 測定法
	C. 両眼視	a. 定義と正常、異常
		b. 発達
		c. 成立の生理学的機序
		d. 網膜対応、両眼視野
		e. ホロプタとVieth-Müllerの円
		f. Panumの融像感覚圏
		g. 両眼視の成立条件
		h. 融像
		i. 静的立体視と動的立体視
		j. 視野闘争と抑制
		k. 固視ずれ
		l. 不同視と不等像視
		m. 複視
		n. 動体覚

大項目	中項目	小項目
	D. 眼位	a. 定義
		b. 眼位の成り立ち
		c. 眼位の異常
		d. 屈折異常と眼位の関係
	E. 眼球運動	a. 固視微動
		b. 共同運動
		c. 非共同運動
		d. 位置覚と自己受容器
		e. 筋の興奮収縮連関
		f. 神経、筋の静止電位と活動電位
3. 視能矯正と視覚生理学の基礎	A. 視覚生理学の基礎知識	a. 視覚生理学
		b. 視覚心理学
		c. 視覚の成り立ち
		d. 視覚の閾値
	B. 光覚	a. 網膜の光化学
		b. 明順応
		c. 暗順応
		d. 分光視感効率<比視感度>
	C. 色覚	a. 色の性質
		b. 色覚異常の種類と検査、遺伝
	D. 形態覚	a. 視力の概念
		b. 視力の分類
		c. 視力に影響する因子
		d. 網膜部位と視力
		e. コントラスト感度
		f. 変視症の評価
	E. 視野	a. 視野の概念
		b. 動的測定と静的測定
		c. 視野に影響する因子
		d. 視野異常
	F. 限界フリッカ値	
	G. 電気生理学	a. 周波数
		b. 生体電気信号の特徴
		c. フィルタと時定数
		d. 眼球電図<EOG>、筋電図<EMG>、視覚誘発電位<VEP>、電気眼振図<ENG>、網膜電図<ERG>
	H. 超音波	

大項目	中項目	小項目
4. 視能矯正と生理光学の基礎	A. 生理光学の基礎知識	a. 光の性質、幾何光学
		b. レンズ
		c. バージェンス
		d. プリズム
		e. フィルタ
		f. ミラー
		g. 結像と収差
		h. 波動光学
		i. 眼球光学系の特徴
		j. 模型眼とその名称
		k. 屈折、調節の光学
	B. 屈折、調節の異常	a. 近視
		b. 遠視
		c. 乱視
		d. 老視
	C. 屈折、調節の矯正	a. 眼鏡レンズ
		b. 眼鏡フレーム(フィッティングを含む)
		c. コンタクトレンズ
		d. 眼内レンズ
		e. 屈折矯正手術
		f. 屈折異常の予防と治療
		g. 薬物
	D. 屈折・調節に関連する計算式	

VI. 視能検査学（専門分野）

大項目	中項目	小項目
1. 視能検査学概要	A. 基本的知識	a. 検査に対する知識
	B. 医療面接の方法	a. 医療面接の進め方
		b. 面接者の態度、接遇とマナー
		c. 病歴のとり方
	C. 診療録、医療記録	a. 診療録の記録と報告
		b. 検査データの管理(保存期間、守秘義務、開示)
	D. 患者、障害者への検査	a. 小児、高齢者、障害者への対応
		b. 検査時の注意
2. 視能検査の心理的、社会的側面についての配慮	A. 視能訓練士の心理的、社会的側面	a. 検査への姿勢、意識
		b. 検査における責任
		c. 視能訓練士の自己マネジメント
	B. 患者、障害者の心理的、社会的側面	a. 患者、障害者の心理
		b. 病気、障害に対する意識と心理
3. 視能検査	A. 視力検査	a. 遠見、近見視力検査
		b. 単一、並列視力検査
		c. 乳幼児視力検査(PL法を含む)
		d. 両眼開放視力検査
		e. コントラスト感度、干渉縞視力
		f. logMAR値
		g. ETDRSチャート
		h. グレア検査
	B. 屈折検査	a. 他覚的屈折検査(波面収差解析を含む)
		b. 自覚的屈折検査
	C. 眼鏡、コンタクトレンズ検査	a. 眼鏡検査
		b. コンタクトレンズ検査
		c. 瞳孔間距離計測検査
		d. レンズメータ
	D. 固視検査	
	E. 調節検査(AC/A比を含む)	
	F. 視野検査	a. 動的、静的視野測定法(自動視野計を含む)
		b. 中心暗点検査(格子型中心暗点表を含む)
		c. 対座法
	G. 色覚検査	a. 色覚検査表<仮性同色表>
		b. アノマロスコープ
		c. 色相配列検査

大項目	中項目	小項目
	H. 中心フリッカ検査	a. 限界フリッカ値<CFF>
	I. 変視症の検査	
	J. 両眼視機能検査(網膜対応検査を含む)	a. Bagolini線条検査
		b. 大型弱視鏡検査
		c. 残像検査
		d. 赤フィルタ法
		e. 立体視検査(深径覚の検査を含む)
		f. 不等像視検査
		g. プリズムを用いた検査
		h. Worth4灯試験
		i. 偏光フィルタ
	K. 眼位検査	a. 角膜反射検査
		b. 遮閉試験
		c. Maddox杆
		d. プリズム
		e. 大型弱視鏡検査
	L. 眼球運動検査	a. 赤フィルタ法
		b. Hess赤緑試験
		c. 注視野
		d. 9方向眼位検査
		e. 牽引試験
	M. 輻湊検査	
	N. 外眼部検査	a. 眼球突出度検査
		b. 眼瞼の検査
	O. 前眼部、透光体検査	a. 細隙灯顕微鏡検査
	P. 角膜検査	a. 角膜形状解析、角膜トポグラフィ
		b. 角膜内皮細胞検査
		c. 角膜知覚検査
		d. 角膜厚検査
		e. 前眼部三次元画像解析装置<前眼部OCT>
	Q. 瞳孔検査	a. 対光反射
		b. 近見反応
		c. 瞳孔径測定
	R. 眼底検査	a. 倒像、直像鏡検査
		b. 前置レンズ検査
	S. 眼圧検査	
	T. 隅角検査	

大項目	中項目	小項目
	U. 涙液検査	a. Schirmer試験
		b. 生体染色検査
		c. 涙液層破壊時間<BUT>
	V. 画像検査	a. 眼底撮影(広角眼底撮影および立体眼底撮影を含む)
		b. フルオレセイン蛍光眼底造影検査<FA>、インドシアニングリーン蛍光眼底造影検査<IA>
		c. 眼底自発蛍光撮影<FAF>
		d. 光干渉断層計<OCT>
		e. 光干渉断層血管撮影<OCTA>
		f. 超音波検査
		g. 眼軸長検査
		h. エックス線撮影、CT、MRI
	W. 電気生理検査	a. 眼球電図<EOG>
		b. 筋電図<EMG>
		c. 視運動性眼振<OKN>
		d. 視覚誘発電位<VEP>
		e. 電気眼振図<ENG>
		f. 網膜電図<ERG>

VII. 視能障害学（専門分野）

大項目	中項目	小項目
1. 主要眼疾患の基本的知識	A. 眼瞼	a. 眼瞼下垂
		b. 睫毛、眼瞼内反
		c. 兔眼
		d. 麦粒腫
		e. 霰粒腫
		f. 睫毛乱生
	B. 涙器	a. 鼻涙管閉塞
		b. 涙嚢炎
		c. 涙液分泌減少症、眼乾燥症〈ドライアイ〉
	C. 結膜	a. 結膜炎
	D. 角膜	a. 角膜炎
		b. 角膜潰瘍
		c. 角膜変性{症}、角膜ジストロフィ
		d. 円錐角膜
	E. 強膜	a. 強膜炎
	F. 水晶体	a. 白内障
		b. 水晶体偏位、脱臼
	G. 緑内障	a. 原発開放隅角緑内障
		b. 正常眼圧緑内障
		c. 原発閉塞隅角緑内障
		d. 小児緑内障
	H. ぶどう膜	a. 虹彩毛様体炎
		b. ぶどう膜炎
		c. ぶどう膜の腫瘍
		d. パキコロイド関連疾患
	I. 網膜	a. 網膜静脈閉塞
		b. 網膜動脈閉塞
		c. 糖尿病網膜症
		d. 網膜色素変性、その他の変性およびジストロフィ
		e. 中心性漿液性脈絡網膜症
		f. 未熟児網膜症
		g. 加齢黄斑変性
		h. 網膜剝離
		i. 網膜芽細胞腫
	J. 硝子体	a. 硝子体出血、混濁、後部硝子体剝離

大項目	中項目	小項目
	K. 眼窩	a. 眼球突出、陥凹
		b. 眼窩腫瘍
		c. 眼窩の炎症
		d. 眼窩吹き抜け骨折
	L. 視神経、視路	a. 視神経炎
		b. 視神経症
		c. うっ血乳頭
		d. 視交叉から後頭葉までの視覚伝導路の疾患
	M. 瞳孔	a. 瞳孔不同
		b. 瞳孔緊張症〈緊張性瞳孔〉
		c. 対光反射異常
		d. 近見反応
	N. 斜視	
	O. 弱視	
	P. 眼球運動	a. 核上性〈中枢性〉眼球運動障害〈眼球運動神経麻痺〉
		b. 核・核下性〈末梢性〉眼球運動障害〈眼球運動神経麻痺〉
		c. 神経筋接合部障害
		d. 筋原性障害
		e. 機械的障害
		f. 眼振
		g. その他の異常眼球運動
	Q. 色覚異常	
	R. 屈折異常	
	S. 調節異常	
	T. 眼外傷	
	U. 身体症状症〈心因性視能障害〉	
	V. 全身疾患と眼	
	W. 眼先天異常	
2. 失明(視能障害)予防	A. 予防と対策	a. 失明(視能障害)原因疾患
		b. 視覚発達時期別の予防対策
		c. 失明(視能障害)原因別予防対策

Ⅷ. 視能訓練学（専門分野）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1. 斜視の基本的知識	A. 定義	
	B. 病因論	
	C. 分類	a. 内斜視
		b. 外斜視
		c. 上下斜視
		d. 回旋斜視
		e. A-V型斜視
		f. 交代性上斜位
		g. 微小斜視
		h. 麻痺性斜視
i. 斜視特殊型		
2. 弱視の基本的知識	A. 定義	
	B. 病因論	
	C. 小児視能特性	
	D. 分類	a. 斜視弱視
		b. 微小斜視弱視
		c. 不同視弱視
d. 屈折異常弱視		
e. 形態覚遮断弱視		
3. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの対象となる視能障害	A. 機能的視能障害	
	B. 器質的視能障害	
	C. 機械的視能障害	
	D. 身体症状症<心因性視能障害>	
	E. 眼振	
4. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの臨床心理概要	A. 小児心理の特性	a. 小児期
		b. 思春期、青年期
	B. 病院における小児の心理	a. 不安の心理
		b. 恐怖の心理
	C. 患者と家族の心理	a. 障害の受容に至る過程
		b. 視能障害児・者の心理
		c. 高齢者の心理
		d. 家族の心理
	D. 視能訓練と小児の心理	a. 訓練に入る前の心理とケア
		b. 視能訓練と小児の心理

大項目	中項目	小項目
5. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの基本的知識	A. 基本的知識	a. 目的
		b. 原理と原則
		c. インフォームドコンセント
		d. 視能評価
		e. 目標と計画書の作成
		f. 適応と予後
		g. 方法の選択
		h. 効果の判定
		i. 記録と報告
		j. 指導と管理
		k. 注意点と禁忌
		l. 専門用語
		m. QOL<quality of life>評価
6. 視能矯正訓練と視能リハビリテーションの知識と技術	A. 観血的視能矯正	a. 適応と方法
		b. 手術筋の選択
		c. 強化術
		d. 弱化術
		e. 筋移動術
		f. 眼振の手術
		g. ボツリヌス療法
		h. 合併症
	B. 光学的視能矯正	a. 屈折矯正(眼鏡とコンタクトレンズ)
		b. プリズム
		c. フィルタ
	C. 薬理的視能矯正	a. 副交感神経薬
		b. 副作用、合併症
	D. 弱視訓練	a. 屈折矯正
		b. 遮閉法
		c. ペナリゼーション
	E. 両眼視機能訓練	a. 交代固視訓練
		b. 抑制除去訓練
		c. 融像訓練
		d. 網膜対応異常の矯正訓練
	F. 後天眼球運動障害のリハビリテーション	a. 眼球運動訓練
		b. 輻湊訓練
		c. fusion lock training

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	G. ロービジョンケア	a. 視覚補助具の選定と指導
		b. 身体障害者障害程度等級の評価
		c. 日常生活動作<ADL>訓練
		d. 社会参加の支援
		e. 多職種連携
		f. 他施設連携(行政を含む)
	H. 機能的視能障害のリハビリテーション	

索引

索引

9

9方向眼位検査 16

A

AC/A比 12

A-V型斜視 20

B

Bagolini線条検査 16

C

CT 17

E

ETDRSチャート 15

F

fusion lock training 21

H

Hess赤緑試験 16

L

logMAR値 15

M

Maddox杆 16

MRI 17

P

Panumの融像感覚圏 12

Q

QOL<quality of life> 9

QOL<quality of life>評価 ... 21

QOV<quality of vision> 9

S

Schirmer試験 17

V

Vieth-Müllerの円 12

W

Worth4灯試験 16

あ

赤フィルタ法 16

アクシデント 10

アノマロスコープ 15

アレルギー疾患 5

アレルギー反応 5

暗順応 13

い

維持期 4

位置覚 13

遺伝子 2

遺伝子異常 4, 5

医薬品等による院内感染 8

医薬品等による健康被害 8

医療過誤 10

医療記録 15

医療経済 9

医療事故 10

医療システム管理 10

医療制度の特徴 9

医療統計 12

医療の質と安全の確保 10

医療法 9

医療保険制度 9

医療面接 15

インシデント 10

インドシアニンググリーン蛍光眼底

造影検査<IA> 17

院内感染対策 10

インフォームドコンセント10, 21

う

うっ血乳頭 19

運動器系疾患 5

運動器疾患 5

え

疫学概論 9

疫学指標 9

疫学的方法 9

エックス線撮影 17

遠見視力検査 15

遠視 14

炎症 4

円錐角膜 18

お

大型弱視鏡検査 16

か

外眼筋 5, 6, 12
 外眼部検査 8, 16
 開瞼運動 7
 介護制度の特徴 9
 介護保険法 9
 開散 7, 12
 外斜視 20
 外傷 4, 5
 回旋斜視 20
 外側膝状体 2, 7
 外直筋 6
 外転神経 7
 回復期 4
 解剖学的計測値 6
 海綿静脈洞 6
 科学的研究の意義と方法 12
 下眼窩裂 6
 下眼静脈 6
 核 2
 核遺伝子 2
 核・核下性<末梢性>眼球運動障害
 <眼球運動神経麻痺> 19
 核上性中枢 7
 核上性<中枢性>眼球運動障害<眼
 球運動神経麻痺> 19
 学童期 3
 学童期の成長と発達 3
 角膜 6, 18
 角膜厚検査 16
 角膜炎 18
 角膜潰瘍 18
 角膜形状解析 16
 角膜検査 8, 16
 角膜ジストロフィ 18
 角膜知覚検査 16
 角膜トポグラフィ 16
 角膜内皮細胞検査 16
 角膜反射検査 16
 角膜変性{症} 18

下斜筋 6
 渦静脈 6
 下垂体 2
 画像検査 8, 17
 家族との連携 10
 家族の心理 20
 下直筋 6
 滑車神経 7
 活動電位 13
 合併症 21
 加齢 3, 5
 加齢黄斑変性 18
 眼圧 7
 眼圧検査 8, 16
 眼位 13
 眼位検査 8, 16
 眼窩 6, 19
 眼外傷 19
 感覚器系疾患 4
 眼窩構成骨 6
 眼窩腫瘍 19
 眼窩吹き抜け骨折 19
 眼乾燥症<ドライアイ> 18
 眼球 2, 5, 6
 眼球運動 12, 13, 19
 眼球運動訓練 21
 眼球運動検査 8, 16
 眼球運動神経核 7
 眼球陥凹 19
 眼球光学系 14
 眼球電図<EOG> 13, 17
 眼球突出 19
 眼球突出度検査 16
 眼鏡検査 8, 15
 眼鏡フレーム(フィッティングを
 含む) 14
 環境問題 9
 眼鏡レンズ 14
 視血の視能矯正 21
 眼瞼 6, 16, 18
 眼瞼下垂 18
 眼瞼内反 18
 眼軸長検査 17
 眼疾患 5
 患者と家族の心理 9, 20
 患者と視能訓練士の関係 10
 患者の安全管理 10

患者の意向の尊重(患者参加型医
 療) 10
 患者の社会的側面 15
 患者の心理 15
 患者の心理的側面 15
 患者の心理特性とケア 10
 患者への検査 15
 干渉縞視力 15
 眼静脈 6
 眼振 19, 20
 眼振の手術 21
 関節疾患 5
 関節の構造と機能 2
 感染 4
 感染症 5
 眼先天異常 19
 眼底検査 8, 16
 眼底撮影(広角眼底撮影および立
 体眼底撮影を含む) 17
 眼底自発蛍光撮影<FAF> 17
 眼動脈 6
 眼内レンズ 14
 眼付属器 2, 5, 6

き

機械的視能障害 20
 機械的障害 19
 幾何学的計測値 6
 幾何光学 14
 機器の安全管理 7
 器質性精神疾患 5
 器質的視能障害 20
 拮抗筋 12
 機能回復 4
 機能局在 7
 機能性<内因性>精神疾患 5
 機能的視能障害 20, 22
 嗅覚の構造と機能 2
 救急対応 10
 急性期 4
 強化術 21
 行政と制度 9
 共同運動 13
 共同筋 12
 恐怖の心理 20

強膜 6, 18
 強膜炎 18
 局所投与 8
 局所麻酔薬 8
 記録 10
 筋移動術 21
 近見視力検査 15
 筋原性疾患 5
 筋原性障害 19
 近見反応 7, 16, 19
 近視 14
 筋組織 2
 筋電図<EMG> 13, 17
 筋の構造と機能 2
 筋の興奮収縮連関 13

く

隅角 6
 隅角検査 8, 16
 屈折 12, 14
 屈折異常 13, 14, 19
 屈折異常弱視 20
 屈折矯正 21
 屈折矯正(眼鏡とコンタクトレン
 ズ) 21
 屈折矯正手術 14
 屈折検査 8, 15
 グレア検査 15

け

形態覚 13
 形態覚遮断弱視 20
 外科系疾患 5
 血液の構造と機能 2
 血管 6
 血管の構造と機能 2
 結像 14
 結膜 6, 18
 結膜炎 18
 牽引試験 16
 限界フリッカ値 13
 限界フリッカ値<CFF> 16
 研究倫理 12

健康科学と栄養 4
 健康管理と増進 4
 健康診査 9
 健康の基本的知識 4
 健康の指標 9
 検査機器の規格と構成 7
 検査データの管理 10
 検査データの管理(保存期間、守
 秘義務、開示) 15
 検査における責任 10
 検査目的に応じた検査機器の選択
 7
 原発開放隅角緑内障 18
 原発閉塞隅角緑内障 18

こ

光覚 13
 光学的計測値 6
 光学的視能矯正 21
 光干渉断層計<OCT> 17
 光干渉断層血管撮影<OCTA> 17
 交感神経 2, 7
 交感神経薬 8
 膠原病 5
 虹彩毛様体炎 18
 高次運動野 7
 高次感覚野 7
 高次視覚中枢 7
 高次脳機能障害 4
 公衆衛生総論 9
 甲状腺 2
 交代固視訓練 21
 交代性上斜位 20
 後天眼球運動障害 21
 後頭葉 19
 後頭葉<視覚中枢> 2
 後部硝子体剥離 18
 高齢者の心理 20
 高齢者の心理特性とケア 10
 高齢者への対応 15
 呼吸器疾患 5
 国際疾病分類 4
 国際生活機能分類<ICF> 9
 固視検査 8, 15
 固視ずれ 12

固視微動 13
 個人情報保護 10
 骨格筋 2
 骨格筋弛緩剤(ボツリヌス毒素を
 含む) 8
 骨疾患 5
 根拠に基づいた医療<EBM>として
 の視能矯正 12
 コンタクトレンズ 14
 コンタクトレンズ検査 8, 15
 コントラスト感度 13, 15

さ

細隙灯顕微鏡検査 16
 再生医療 5
 細胞の構造と機能 2
 細胞の再生 4
 細胞膜 2
 催眠薬 8
 三叉神経 7
 残像検査 16
 霰粒腫 18

し

視運動性眼振<OKN> 17
 視覚 13
 視覚系 2
 視覚系の構造と機能 2
 視覚情報の基本 7
 視覚心理学 13
 視覚生理学 13
 自覚的屈折検査 15
 視覚伝導路 7, 19
 視覚の閾値 13
 視覚補助具の選定と指導 22
 視覚誘発電位<VEP> 13, 17
 色覚 13
 色覚異常 13, 19
 色覚検査 8, 15
 色覚検査表<仮性同色表> 15
 色相配列検査 15
 視器の病理 5
 軸索 2

視交叉..... 2, 7, 19
 自己受容器..... 13
 自己免疫疾患..... 5
 視索..... 2, 7
 支持組織..... 2
 思春期..... 3, 20
 視床下部..... 2
 視神経..... 2, 5, 6, 7, 19
 視神経炎..... 19
 視神経管..... 6
 視神経症..... 19
 市町村保健センター..... 9
 疾病..... 4
 疾病の基本的知識..... 4
 失明(視能障害)原因疾患..... 19
 シナプス..... 2
 視能矯正..... 12
 視能訓練士..... 9, 12, 15
 視能訓練士の社会的側面..... 15
 視能訓練士の心理的側面..... 15
 視能訓練士の倫理..... 10
 視能訓練士法..... 9, 10
 視能検査および視能矯正に用いる
 薬物の基本的知識..... 8
 視能検査機器の基本的知識..... 7
 視能障害..... 4, 9, 12
 視能障害児・者の心理..... 20
 視能評価..... 21
 視放線..... 2, 7
 視野..... 13
 視野異常..... 13
 社会医療制度..... 9
 社会環境の変化..... 4
 弱化術..... 21
 弱視..... 19
 弱視訓練..... 21
 視野検査..... 8, 15
 斜視..... 19
 斜視弱視..... 20
 斜視特殊型..... 20
 視野闘争..... 12
 遮閉試験..... 16
 遮閉法..... 21
 収差..... 14
 周波数..... 13
 終末期..... 4
 手術筋の選択..... 21

受精から個体発生..... 2
 守秘義務..... 10
 腫瘍..... 4
 循環器疾患..... 5
 循環障害..... 4
 障害者の社会的側面..... 15
 障害者の心理..... 15
 障害者の心理的側面..... 15
 障害者の心理特性とケア..... 10
 障害者の日常生活及び社会生活を
 総合的に支援するための法律
 〈障害者総合支援法〉..... 9
 障害者への検査..... 15
 障害者への対応..... 15
 障害受容..... 9
 障害に対する意識と心理..... 15
 障害の基本的知識..... 4
 障害の受容に至る過程..... 20
 障害論..... 9
 松果体..... 2
 上眼窩裂..... 6
 上眼静脈..... 6
 上下斜視..... 20
 硝子体..... 6, 18
 硝子体混濁..... 18
 硝子体出血..... 18
 上斜筋..... 6
 上直筋..... 6
 小児科系疾患..... 5
 小児期..... 5, 20
 小児視能特性..... 20
 小児心理の特性..... 20
 小児の心理..... 20
 小児の心理特性とケア..... 10
 小児への対応..... 15
 小児緑内障..... 18
 上皮組織..... 2
 睫毛内反..... 18
 睫毛乱生..... 18
 職務倫理..... 10
 処置..... 10
 ショック..... 8
 自律神経..... 2
 視力..... 13
 視力検査..... 8, 15
 視路..... 19
 人格障害..... 5

神経筋接合部障害..... 19
 神経系疾患..... 4
 神経膠細胞..... 2
 神経細胞..... 2
 神経支配と中枢..... 12
 神経症性障害..... 5
 神経生理学..... 2
 神経線維..... 2
 神経組織..... 2
 神経伝達物質..... 2
 神経の構造と機能..... 2
 神経発達症〈発達障害〉..... 5
 神経変性疾患..... 4
 進行性病変..... 4
 人口統計..... 9
 人口問題..... 9
 腎疾患..... 5
 心身医学的疾患..... 5
 心身症..... 4
 新生児期..... 3
 新生児の生理..... 3
 心臓の構造と機能..... 2
 身体障害者障害程度等級..... 22
 身体症状症〈心因性視能障害〉..... 5,
 19, 20
 診療録..... 15

す

髄鞘..... 2
 水晶体..... 6, 18
 水晶体脱臼..... 18
 水晶体偏位..... 18
 膝島..... 2
 ストレス関連障害..... 5

せ

静止電位..... 13
 正常眼圧緑内障..... 18
 生殖器疾患..... 5
 精神疾患..... 4
 精神神経系疾患..... 5
 精神発達..... 3
 生体染色検査..... 17

生体電気信号 13
 静的視野測定法(自動視野計を含む) 15
 静的測定 13
 静的立体視 12
 青年期 3, 5, 20
 生命表(死因分類) 9
 生命表(平均余命と平均寿命) .. 9
 生理光学 14
 脊髓 2, 4
 脊髓神経 2
 脊椎疾患 4
 接遇 10, 15
 前眼部検査 8, 16
 前眼部三次元画像解析装置<前眼部OCT> 16
 染色体 2, 4
 全身疾患 19
 全身投与 8
 前置レンズ検査 16
 前庭平衡系の構造と機能 2
 先天異常 4

そ

増悪期 4
 造血器の構造と機能 2
 創傷の治癒 4
 組織 9
 組織の構造と機能 2

た

第一次運動野 7
 第一次感覚野 7
 第一次視覚中枢 7
 大虹彩動脈輪 6
 退行性病変 4
 対光反射 7, 16
 対光反射異常 19
 対座法 15
 胎児期 3
 胎児の発育 3
 代謝 5
 代謝異常 4

代謝疾患 5
 対象疾患 9
 体性感覚系の構造と機能 2
 大脳皮質 7
 他覚的屈折検査(波面収差解析を含む) 15
 他施設連携(行政を含む) 22
 多職種連携 10, 22
 脱髄疾患 4
 単一視力検査 15
 単眼運動 12

ち

地域包括ケアシステム 9
 チーム医療 10
 注視野 16
 中心暗点検査(格子型中心暗点表を含む) 15
 中心性漿液性脈絡網膜症 18
 中心フリッカ検査 8, 16
 中枢処理機構 7
 中枢神経の構造と機能 2
 中毒 8
 超音波 13
 超音波検査 17
 聴覚系の構造と機能 2
 調節 7, 12, 14
 調節異常 19
 調節検査(AC/A比を含む) .. 8, 15
 直像鏡検査 16

て

点眼薬 8
 電気眼振図<ENG> 13, 17
 電気生理学 13
 電気生理検査 8, 17

と

動眼神経 7
 瞳孔 19
 瞳孔間距離計測検査 15

瞳孔緊張症<緊張性瞳孔> 19
 瞳孔径測定 16
 瞳孔検査 8, 16
 透光体検査 8, 16
 瞳孔反応 7
 瞳孔不同 19
 倒像鏡検査 16
 動体覚 12
 動的視野測定法(自動視野計を含む) 15
 動的測定 13
 動的立体視 12
 糖尿病網膜症 18
 兎眼 18
 特別支援教育 9

な

内科系疾患 5
 内斜視 20
 内直筋 6
 内分泌器官の構造と機能 2
 内分泌疾患 5

に

日常生活動作<ADL>訓練 22
 日常生活動作の援助指導 9
 日常生活の不自由度 9
 乳児期 3
 乳児の生理 3
 乳幼児視力検査(PL法を含む) . 15

の

脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳) 2
 脳外傷 4
 脳血管障害 4
 脳疾患 4
 脳腫瘍 4
 脳神経(第Ⅰ～Ⅻ脳神経) 2
 脳神経系疾患 5
 脳の可塑性 4

ノーマライゼーション 9

は

バージェンス 14
 パキコロイド関連疾患 18
 白内障 18
 麦粒腫 18
 波動光学 14
 バリアフリー 9

ひ

光の性質 14
 非共同運動 13
 微小斜視 20
 微小斜視弱視 20
 泌尿器疾患 5
 病因 4
 病院における小児の心理 20
 病因論 4, 20
 病期 4
 病気に対する意識と心理 15
 標準予防策 10
 病歴のとり方 15
 鼻涙管閉塞 18

ふ

不安の心理 20
 フィルタ 13, 14, 21
 副交感神経 2, 7
 副交感神経薬 8, 21
 副作用 21
 複視 12
 福祉制度の特徴 9
 副腎皮質 2
 輻湊 7, 12
 輻湊訓練 21
 輻湊検査 8, 16
 不同視 12
 不同視弱視 20
 不等像視 12
 不等像視検査 16

ぶどう膜 18
 ぶどう膜(虹彩、毛様体、脈絡膜)
 6
 ぶどう膜炎 18
 ぶどう膜の腫瘍 18
 プリズム 14, 16, 21
 フルオレセイン蛍光眼底造影検査
 〈FA〉 17
 フレイル 5
 分光視感効率〈比視感度〉 13

へ

平滑筋 2
 閉瞼運動 7
 並列視力検査 15
 ペナリゼーション 21
 偏光フィルタ 16
 変視症 13, 16

ほ

報告 10
 房水 7
 保健医療福祉 12
 保健所 9
 保健制度の特徴 9
 ボツリヌス療法 21
 骨の構造と機能 2
 ホルモンの種類と作用機序 2
 ホロプタ 12

ま

末梢神経疾患 4
 末梢神経の構造と機能 2
 マナー 10, 15
 麻痺性斜視 20

み

味覚系の構造と機能 2
 未熟児網膜症 18

ミトコンドリア 2
 ミトコンドリア遺伝子 2
 ミラー 14

め

眼 5, 19
 明順応 13
 眼の発生 2
 免疫 5
 免疫異常 4
 免疫系の構成・機能 2

も

網膜 6, 7, 18
 網膜芽細胞腫 18
 網膜色素変性 18
 網膜静脈閉塞 18
 網膜対応 12
 網膜対応異常 21
 網膜中心静脈 6
 網膜中心動脈 6
 網膜電図〈ERG〉 13, 17
 網膜動脈閉塞 18
 網膜の光化学 13
 網膜剥離 18
 網膜部位 13
 毛様体小帯〈Zinn小帯〉 6
 毛様体動脈 6
 模型眼 14

や

薬物 8, 14
 薬理学的視能矯正 21

ゆ

融像 12
 融像訓練 21
 ユニバーサルデザイン 9

よ

幼児期	3
幼児期の成長と発達	3
抑制	12
抑制除去訓練	21

ら

乱視	14
----------	----

り

リスボン宣言	10
立体視検査(深径覚の検査を含む)	16
リハビリテーション	9, 22

両眼開放視力検査	15
両眼共同運動	12
両眼視	12
両眼視機能訓練	21
両眼視機能検査(網膜対応検査を 含む)	8, 16
両眼視野	12
両眼離反運動	12
緑内障	18

る

涙液	7
涙液検査	8, 17
涙液層	7
涙液層破壊時間<BUT>	17
涙液分泌減少症	18
涙器	18
涙器(涙腺、導涙系)	6

涙嚢炎	18
-----------	----

れ

連合野	7
レンズ	14
レンズメータ	15
連絡体制管理	10

ろ

老化	3, 5
老視	14
老年期	5
老年期疾患	5
ロービジョン	10
ロービジョンケア	22